

令和元年6月11日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02413

研究課題名(和文) 国家変容と国民形成運動に関する動態的研究：近代ハンガリーにおける「民衆」

研究課題名(英文) A dynamic study of nation modification and nation building: the idea of "folk" in modern Hungary

研究代表者

岡本 真理 (Okamoto, Mari)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授

研究者番号：10283839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題(「国家変容と国民形成運動に関する動態的研究：近代ハンガリーにおける「民衆」)は、言語と文学を中心とした近代国民形成運動における「民衆」という表象が担う役割について、近代ハンガリーを研究対象に選んで検討した。国民形成と分断、支配と被支配という、近代においてきわめて複雑な国家変容が見られるハンガリーでは、国民国家形成期における社会の近代化や市民革命によって、急速に「民衆」というモチーフが国民形成の重要な要素となっていくことがわかった。それは、とくに市民社会に直結した新聞というメディアや演劇という文学ジャンルで顕著であったことを、近代メディアや文学作品といった一次資料から検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は文学史を対象としながらも、社会思想史的な観点から近代社会そのものを再考するものである。ハンガリーという限定された地域の研究を通して、「民衆」像をキーワードにハンガリーの独自性を浮かび上がらせることができたが、同時に近代ヨーロッパの国民形成運動という共通の文脈における普遍的な現象に関与・言及することができたと考える。わが国でこれまでほぼまったく紹介されてこなかった近代ハンガリー文学史を、ヨーロッパ近代史のダイナミズムの中で捉え、紹介することに貢献できる研究でもある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study (A dynamic study of nation modification and nation building: the idea of "folk" in modern Hungary) is to examine modern Hungary as a research target about the role played by the idea of "folk" in the modern nation-building movement with a focus on language and literature. In Hungary, where extremely complex state changes are seen in modern times, such as nation formation and division, dominate and dominated, the motif of "folk" rapidly obtained importance due to the modernization of society and civil revolution during the period of nation state formation. It was verified from the primary sources such as the cultural-political newspapers and theatre works of 19th century, that it was remarkable especially in the media and literary genre which were directly related to civil society.

研究分野：ヨーロッパ その他の文学

キーワード：ハンガリー語 ハンガリー文学 近代ヨーロッパ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

申請者は前研究課題(「国家変容と言語問題のモデル的研究:ハンガリー語のケース」基盤研究(C)平成20~24年度)で、近代ハンガリーの国家変容と国民形成運動が連動しながら、次第に「民衆(nép)」がその核を形作る重要な表象となっていくことを明らかにした。本研究では、この表象が、近代前半 1848年革命と挫折 近代後半 トリアノン(民族分断)に至る過程でどう変化し、その役割をどう変えていくかを通して、ハンガリーにおける国民文学運動を検証することとした。

#### 2. 研究の目的

本研究課題(「国家変容と国民形成運動に関する動態的研究:近代ハンガリーにおける「民衆」)は、言語と文学を中心とした近代国民形成運動の中の「民衆」という表象をテーマとする。近代ハンガリーには、国民形成と分断、支配と被支配という、きわめて複雑な国家変容が見られる。文学運動においては歴史主義から「民衆」へと関心がシフトし、「民衆」が国民を理想化する存在へと変化してゆく。そこには近代ヨーロッパ文学運動に共通する普遍性と同時に、ハンガリーの特殊性が認められる。

#### 3. 研究の方法

研究対象を文化サークル・文芸誌・劇場という国民形成運動を支える3つの代表的な公空間に絞り、これらにおける「民衆」の表象と機能の変遷を通して、近代ハンガリー文学運動の特性を検証・記述する。

#### 4. 研究成果

平成27年度:近代前半のハンガリーにおける国民形成運動を、1840年代を中心に、新聞と劇場という2つの公空間について検証した。1つは、1830年代から1848年革命にかけて著しく発達した「流行紙(divatlap)」とよばれる文芸誌3紙を比較検討し、それぞれの政治的志向と影響力を多角的に分析した。その結果、「流行紙」というジャンルは、短期間に教養紙から急進的な政治報道紙に変化し、近代新聞史における過渡期的で特殊な位置づけにあることが明らかになった。この研究成果は、論文「近代ハンガリーにおける新聞の発達と1840年代の「流行紙」」『ウラリカ』16号(2015年8月)に発表した。また、2つめの劇場については、1837年設立の国民劇場の発展を、1848年革命とそれに続く独立戦争の10年あまりの変化に焦点を当て、国民劇場のプログラム資料から具体的な情報を読み取ることで実証的検討を行った。その結果、演目からは、特に圧倒的に外国語からの翻訳作品が多かった初期に比べて、ハンガリー語のオリジナル作品が短期間に著しく増えていく様子が読み取れた。配役やその他の情報からは、劇場の運営のあり方、とくに1848年革命がもたらした影響を探った。ハンガリー王国内における最初の本格的なハンガリー語常設劇場として設立された国民劇場は、大貴族から中産階級そして職人や農民にいたるさまざまな社会階層の市民が一堂に会し民族語による演劇文化を享受することのできる唯一の公空間であり、19世紀のロマン主義的国民演劇運動にとって非常に重要な場であったことが明らかになった。以上の研究成果を、論文「近代ハンガリーにおける国民演劇運動の発展 国民劇場の黎明期」『言語文化研究』第42号(2016年3月)に発表した。

平成28年度:近代ハンガリーの国民文化形成運動において、とくに演劇文学において歴史主義から「民衆」へスポットを当てたテーマへと変化していく過程を、1840年代の

「民衆もの」ジャンルに焦点を当てて分析した。具体的には、1848年革命の直前から直後にかけて発表され当時非常に人気を博した劇作において、そのテーマやプロットの展開、登場人物の設定の特徴を分析した。Szigeti Jozsefの『3月の日々のお役人』(1848)、Dobsa Lajosの『3月15日』(1848)、Eotvos Jozsef『平等ばんざい』(1840)、Obernyik Karoly『ウィーン革命の中のハンガリー人』(1849)などである。これらの作品に共通した特徴として、登場人物が革命派と保守派にはっきりと分かれ、主人公は革命派の若者である、革命の動向と主人公の恋愛物語がパラレルに描かれ、恋愛の障害となる人物は保守派であり、政治的な対抗軸ともなっている、プロットは軽快な展開を見せ、主人公の恋愛の成就と革命の成功の両方が描かれたハッピーエンドが主流であること、その一方で、貴族・富裕市民・労働者階級のあいだに解決しがたい隔たりと相互不理解による摩擦が描かれている点にリアリズム文学の前兆が現れていること、などを明らかにした。

平成29年度：前年度、前々年度の研究で、おもに新聞や演劇という媒体に着目しながら19世紀なかばにおける国民文学の形成のあり方を検証したので、この年度はさらに近代全体におけるハンガリー国民文学形成の諸相を俯瞰する方向へ転換させた。近代国民文学形成に関する諸問題を、20世紀初頭の作家コストラニ・デジェーの生涯と作品を通して検討した。この時代は、第一次世界大戦が終結し、ハプスブルク家が統治する多民族帝国が崩壊、また1918年秋のブルジョア民主主義革命では作家らがハンガリー共和国建設を後押しして自由主義的な文学団体ヴェレシュマルティ・アカデミーを創立した。しかし、政権が半年で崩壊し、1919年3月に共産主義革命が起こりタナーチ(ソビエト)共和国が樹立すると、ヴェレシュマルティ・アカデミーは廃止され、今度は作家管理局が発足する。そして同年夏にわずか四か月余りで社会主義政権が崩壊し、保守右派のホルティ・ミクローシュがハンガリー王国を復活させ摂政となると、左派の作家らを中心としたこの文学機構も禁止された。翌1920年には、連合国によるトリアノン条約によってハンガリー王国の領土の3分の2が新興諸国家に割譲され、民族の分断という事態を迎える。このような激しい国家変容と国民分断の中で、多くの文学者が政治的活動に深く関与する一方、コストラニはあえて距離を置き個人的な問題を描くことで普遍的文学を成立させたことを検証した。

平成30年度：前年度の研究成果を、コストラニの短編小説17編の翻訳『ヴォブルン風オムレツ コストラニ・デジェー短編集』(未知谷)および、解説論文「コストラニ文学の普遍性 近代ハンガリーという特殊性のなかで」(同上)でまとめた。また、口頭発表2件も行った。コストラニの一見矛盾に満ちたような思想や活動をたどることで、近代ハンガリー文学における国民文学形成とイデオロギーのあり方を逆に浮き彫りにすることができるということを提示した。また、ハンガリーおよびセルビアでの調査研究を通じて、近代ハンガリー文学の日本での紹介状況について、現地の新聞でも公表する機会を作った。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計6件)

- OKAMOTO Mari, A magyar mint fozsak a japán felsoktatásban. 『外国語教育のフロンティア2』169-180. 2019年。査読あり。
- 岡本真理、「コストラニ文学の普遍性 近代ハンガリーという特殊性の中で」『ヴォブレン風オムレツ コストラニ・デジェー短編集』未知谷, 173-190. 2018年。査読なし。
- 岡本真理、「1848年革命期ハンガリーの政治喜劇」『言語文化研究』44号, 263-281. 2018年。査読あり。
- 岡本真理、「近代ハンガリーにおける国民演劇運動の発展 国民劇場の黎明期」『言語文化研究』42号, 43-60. 2016年。査読あり。
- Mari OKAMOTO, Motivation and possibility in minor language education: Example of Hungarian in Japan. *Lahivordlusi. Lahivertailuja*, 373-384. 2016年。査読あり。
- 岡本真理、「近代ハンガリーにおける新聞の発達と1840年代の「流行紙」」『ウラリカ』16号, 35-54. 2015年。査読あり。

### 〔学会発表〕(計6件)

- 岡本真理、「作家コストラニ・デジェーと20世紀初頭ハンガリーの文学界」、日本ウラル学会第45回研究大会、大阪大学2018年7月。
- 岡本真理、「短編作品『山の中の小さな湖』を通して見るコストラニ文学の魅力、シンポジウム「東欧文学」、東京大学2018年6月。
- 岡本真理、「1848年革命期ハンガリーの政治喜劇」日本ウラル学会第44回研究大会、名古屋大学、2017年7月。
- 岡本真理、「第12回国際フィン・ウゴル学会におけるハンガリー語・ハンガリー文化の研究発表について」日本ウラル学会第43回研究大会、東京外国語大学、2017年7月。
- Mari OKAMOTO, Motivation and possibility in minor language education: Example of Hungarian in Japan. *Congressus Duodecimus Internationalis Fenno-Ugristarum*. 第12回国際フィン・ウゴル学会、フィンランド・オウル大学、2016年8月。
- 岡本真理、「近代ハンガリーにおける新聞の発達と1840年代の「流行紙」」日本ウラル学会第39回研究大会、関西外国語大学、2016年7月。

### 〔図書〕(計1件)

- 岡本真理、『ヴォブレン風オムレツ コストラニ・デジェー短編集』未知谷、190ページ。2018年。